

第3回滋賀県総合教育会議の結果について

文教・警察常任委員会資料
平成28年8月10日(水)
教育委員会事務局教育総務課

会議次第

平成28年8月5日(金)

14:00~16:00

ピアザ淡海2階207会議室

キャリア教育～発達段階に応じた取組～

『専門高校における教育について』

【ゲスト】

- 滋賀県立彦根工業高等学校長 大菅 順市 氏
- 滋賀県立八日市南高等学校長 三上 保彦 氏
- 岐阜県立岐阜工業高等学校進路指導主事 本田 悟志 氏



主な意見等

- 事務局から「滋賀を支える職業人」の育成、続いて、彦根工業高等学校長および八日市南高等学校長より、両校の取組について発表後、意見交換。次に、岐阜県立岐阜工業高等学校進路指導主事より、岐阜工業高校の取組について発表してもらい、意見交換を行いました。
- 彦根工業高校が目指すのは、工業高校生のブランド化、特に彦工（げんこう）ブランドを作ること。ものづくりの精神や魂を生徒に植え付けて培っていきたい。
 - 八日市南高校の教育目標は、職業教育を通して社会で活躍できる良識ある人材の育成と、地域に貢献すること。「政所茶」や「いいたて雪っ娘」かぼちゃなどの栽培や高校生レストランなどを通して、地域の方からありがとうと言われると、生徒は達成感や自尊感情を育み、さらに次の取組に向かう好循環が生まれる。
 - アクティブ型の授業への転換をいかに行うかが課題。人と話し合い協働してコミュニケーション能力を養うことで、就職してからも分からないことは質問ができる人間になれるのではないかと。
 - 岐阜県では、高校を卒業して企業へ就職する者のうち4分の1が県外に出て行ってしまう。その点、滋賀県では9割以上の生徒が県内で育って就職している。
 - 地方創生という観点では、工業高校を卒業した生徒の実に9割が県内に就職しているというのは、地域のために役に立っているということ。
 - 離職をしないためには、実際に企業を見てインターンシップなどで体験をしてすり合わせをするといったことに加えて、生徒のコミュニケーション能力もあるが、一番はへこたれない力を育てていくことが大事。
 - 高校で勉強していることが将来どういう仕事につながっていくのかということをしつかりと生徒に伝えることが大事だと思っている。
 - 工業高校の課題は山積しているが、特に指導者の養成は喫緊の課題で、専門技能を教える人を育てるのに5年、10年かかる。
 - 工業高校はお金がかかるし、施設、設備を変えることが容易ではないが、基本的な動きや考え方は変わっていないので、現状の中でできることを精いっぱいやっている。
 - 工業高校では、大学や企業などと連携して高校での専門性を高めて、技能者を育てている。工業高校のブランド化のためには、日本版デュアルシステムの実施や専攻科も含めてさまざまな方策を考える必要があると思う。



八日市南高校で栽培された政所茶と「いいたて雪っ娘」かぼちゃの試食を行いました。

